



レンゲショウマ

令和6年9月12日

さいたま市
岩槻班退職校長会

事務局：090-5826-3329 (岡野)

子ども達の支援の要は「唯一無二」「自己肯定感」

8月17日(土)今年度第1回企画研修会がコミセンいわつきで18名(班外3名含む)の参加を得て行われました。

今回は岩槻中の現役さわやか相談員毛利直美様に『課題を抱える今どきの子どもたち』と題してご講演いただきました。



内容は、現在の学校や行政の支援体制の紹介に始まり、不登校傾向の子ども達の現状、成長に伴い原因になりうる要因(小学校低学年では「感覚過敏」、中学年では「学業不振」高学年では「思春期に伴う心身の変調」など)について具体例を交えてお話しいただきました。そして今、最も必要な支援は、子ども達一人一人に目を向けて、自分の「唯一無二」に気づかせ、「自己肯定感」を高めることと締めくくっていただきました。私たちはとかく何事も自分の経験や価値観で判断しがちですが、子どもや保護者と接する場合の視野を広げることができました。



「令和7・8年度役員」の改選を行います

今回も、実質的に会運営のために活動できる役員を確保するために、前回2年前に改定した「役員候補者推薦」の方式で実施します。全会員にあらかじめ役員候補者を推薦していただき(名簿に丸印記入)、その集計を基に「役員推薦委員会」で具体的な役員案を審議し総会で可決していただきます。年内には具体的な要項や推薦依頼文書を配付する予定ですので、格段のご協力をよろしくお願いいたします。

会員用LINEと班ホームページ開設を検討中

事務の効率化と郵便料金引き上げを見据えて[IT活用検討会議](大河内、萩原、岡野、松戸、吉田会員)が開かれ、開催通知や出欠席の確認等の諸連絡にLINEを活用し、事業の詳細はHPで確認できるようにする検討が進められています。希望制とし、文書による通知と2本立てになりますが、詳細は後日お知らせします。皆様のご協力をお願いします。



夏休みの岩槻児童センターとの連携事業

ホテルの観察など7事業が終了

児童センター職員が名づけた「MKDO(マクド=昔校長先生だったおじちゃん・おばちゃん)シリーズ」も開始後1年で19事業になりました。来館者にも徐々に定着し始め、リピーターも含めて参加者も増加しています。

この夏休みに実施したのは次の事業です。

- ①ホテル観察教室「実物を見てホテルの一生を探ろう」
6月29日実施、担当：中山会員、参加者：80名
- ②写真展示「クモの世界Part1 網を張らないクモたち」
6/25~9/15、担当：大河内会員
- ③スライドとお話し「樹液酒場に集う昆虫たち」
8月6日実施、担当：大河内会員、参加者：45名
- ④実験ショー「空気のふしぎ」8月20日実施、
担当：大河内・八木澤会員、参加者：22名
- ⑤竹細工教室「竹でお魚型のおしぼり置きを作ろう」
8月24日実施、担当：井上会員、参加者：3組
- ⑥林会員の提供で『ジャコウアゲハの幼虫から成虫へ』と
- ⑦萩原会員の提供で「スズミの飼育」が生体展示されました。



ホテルの幼虫観察



熱気球は上がるか?



竹を編んでいます

県会員番号訂正のお願い

班総会要項に掲載した県会員番号の一部に変更と追加がありますので、お手元の名簿の訂正をお願いします。

- ・吉野寿一(A041058)・金今義則(A041059)
- ・染谷隆(A041060)

内田元会長の追悼号を発行

すでにお読みいただけたと思いますが、7月11日付で追悼号を発行しました。先生の絵画等の掲載を快くご承諾いただいたご遺族の皆様、また貴重な追悼文をお寄せいただいた会員各位に心から感謝申し上げます。先生の多大なご功績を讃えお人柄を偲び、ご供養になれば幸いです。

季節だより ヘクソカズラ



ヘクソカズラの花
ヘクソカズラゲンバイ

アカネ科の性多年草で、日当たりのよい道端のフェンスなどいたるところに絡みつくつる性植物です。葉や茎を折り細胞を傷つけると、独特の異臭がすることから「屁糞葛」の和名ですが、臭いは敵から逃げるための手段(化学防御)と考えられます。日本だけに生育する在来種で古くは万葉集にも詠まれており「早乙女花」の名もあります。7~9月に中心部が赤紅色で直径が1cm程度の釣鐘状の小花を多数咲かせます。花の中には細かい毛が密生していて、花粉は運ばず蜜だけ盗むアリは侵入できません。一方花と体のサイズがぴったり合うハナバチは蜜を求めて深く潜り込み、体中に花粉をつけて遠くまで運んでくれます。強烈な臭いで天下無敵に思えるヘクソカズラですが、実はその上をいく虫たちが存在します。ヘクソカズラの葉や茎を食草にしているのがホシホウジャクというガの幼虫です。中でもヘクソカズラヒゲナガアブラムシは悪臭成分を体内に蓄積して、しかも体全体目立つオレンジ色で「まずい虫がここにいるぞ」と言わんばかりに敵を威嚇し、テントウムシなどから身を守っています。また、1996年に日本に侵入して分布を拡大しているヘクソカズラゲンバイというカメムシの仲間は、葉の裏で集団になって吸汁するため、葉が白く変色しているのがあちこちで見かけられるようになりました。